

2011 年 2 月 3 日

報道関係各位

中部学院大学
中部学院大学短期大学部

飛騨市・下呂市の 2 市社会福祉協議会と連携調印式

中部学院大学（岡本 健 学長）ならびに中部学院大学短期大学部（片桐 多恵子 学長）は、飛騨市社会福祉協議会（樹下 宣一 会長）、下呂市社会福祉協議会（石丸 忠義 会長）と連携協定を結ぶことになりました。

2 市の社会福祉協議会では、先に協定を結んでいる高山市を加えて、**飛騨全域と本学の連携が成立**します。**飛騨地域が抱える共通した福祉・教育・介護の課題に、共同して取り組む体制が整います**。具体的には、飛騨地域出身の本学の学生に地域の情報を届けて就職支援を行ったり、飛騨地域の人々と本学の学生が交流して地域の生活文化を学んだり、**次世代を担う若者が故郷の福祉や教育、介護を担う人材を育て、地域に定着することなどが期待**されます。（詳細は別紙参照）

記

- 日 時 2011（平成 23）年 2 月 9 日（水）午前 11 時から午前 11 時 30 分
- 場 所 中部学院大学 関キャンパス 大会議室
（関市桐ヶ丘二丁目 1 番地 TEL：0575-24-2211）
- 日 程 10：50 受付開始
11：00 開会（経過と趣旨説明）
11：10 連携協定の調印式
11：20 ごあいさつ
11：30 写真撮影 閉会
- 出席者 中部学院大学 岡本 健 学長
中部学院大学短期大学部 片桐多恵子 学長
飛騨市社会福祉協議会 樹下 宣一 会長
下呂市社会福祉協議会 石丸 忠義 会長 ほか

以上

（本件に関するお問い合わせ先）

中部学院大学総合研究センター（担当：西堀） TEL：0575-24-2238

飛騨市・下呂市の各社会福祉協議会との連携協定について

■ 趣 旨

2市は、飛騨地域の玄関と奥座敷に位置します。広大な面積の中に、かつて9町村が存在しましたが、平成の合併によって2つの市に生まれ変わった地域です。合併後も過疎化と高齢化は進み、住民の暮らしにいろいろな影響が出ています。中でも、高齢化にともなう高齢者の健康や医療、介護の問題は深刻です。また、児童数の減少の中で、子どもの成長と教育について、伝統文化の継承や働く場の創出など、飛騨地域がかかえる課題は多くあります。一方、わが国の伝統的なコミュニティや生活文化・産業が息づく地域でもあり、それらから学ぶ意義も大きいと考えます。

かつて本学と飛騨地域は、いくつもの山々によって隔てられていましたが、東海北陸自動車道の開通と片道2車線化によって、移動時間は一気に短縮されました。飛騨地域には総合的な大学がなく、本学で学ぶ学生数も多くなっています。

このような背景から、中部学院大学・同短期大学部と2市の社会福祉協議会は、お互いに次のことを必要としています。

1. 飛騨地域の次世代を担う若者を育てて、故郷へ帰る道筋をつくること
2. とりわけ、地域の福祉や教育、介護を担う人材を育て、地域に定着させること
3. 飛騨地域の生活文化を発掘し全国に伝えること
4. 飛騨地域の発展のために本学の知的財産を提供すること
5. 飛騨地域の福祉、教育、介護の問題に、高山市を加えた3市社協が協働して取り組むネットワークを形成すること

■ 調印までの経過

2009年2月に岐阜県社会福祉協議会と連携協定を結び、以来、高山市、岐阜市、各務原市、関市の各社協と連携を結んできました。これに続く連携ですが、今回、飛騨市、下呂市が加わることで、すでに協定を結んでいる高山市を加え、飛騨全域と本学との連携が成立します。飛騨地域が抱える共通した福祉・教育・介護の課題に、共同して取り組む体制が整うこととなります。なお、大野郡白川村についても、住民や行政との連携交流を続け、協定を結ぶべき協議を行う予定にしています。

■ 具体的な活動

1. 飛騨地域から本学で学ぶ学生に、地域の情報を届け就職の支援を行うこと
2. 各種の運営委員会・委員会等に大学の研究者が参加し、研究協議に加わると共に必要な提言を行うこと
3. 飛騨地域の人々と本学の学生が交流し、地域の生活文化を学ぶこと
4. 若い学生に飛騨地域の魅力を伝え、飛騨に対する関心を高めること

■ 本学への飛騨地域からの学生数（2011年1月1日現在83名）

○下呂市 大学 12名 短期大学部 16名 計28名

○高山市 大学 23名 短期大学部 15名 計38名

○飛騨市 大学 8名 短期大学部 9名 計17名

（大学・同短期大学部の学生総数 1722名）